

参院選の投票の基準を考える

― 私たちが勧める投票基準は「人柄」、「政策」、「将来」の三つです。

【人柄】

☆まずその人の品格と信念をよく見て下さい。女性を見下したり、貧富の格差を自己責任だと言ったりする様な人を選んではいけません。沖繩の民意を無視して基地建設工事を進めながら「沖繩に寄り添って」などと平気で言う人がいます。この人の言っている事はウソっぽいなと感じたら、あなたの感覚は正常です。

☆次に一見誠実そうに見えても、権力の言うまままで自分の信念主張のない人はやめて下さい。権力の言うままという人が権力側にとつて一番使いやすい好ましい人物なのです。一般市民では無関心で選挙には行かないタイプの人です。

【政策】

☆新聞の世論調査によると、国民の求める政策の優先順位は、①年金、②介護、③老後生活費、④消費税、⑤憲法改正と였습니다(英ブランドウオッチ社ソーシャルメディア分析システム・朝日新聞7/4)。上位四つまで、生活に密着する経済問題です。現政権がやりたがっている憲法改正は五番目です。

☆現政権はアベノミクスの成果として、雇用の増加、企業収益の増加、株価の上昇などを挙げていますが、みなさんの実感はどうでしょう。収入は増えましたが？消費は増えましたか？ノーでしょう。それは、大企業、富裕層優遇に偏った経済政策だからです。雇用の増加はほとんどが低賃金の非正規雇用です。

【将来】

☆現在、現政権を支持する割合が60代以上では5割を切っているのに対して、20代若者の7割が支持という世論調査結果があります(日本経済新聞7/6)。若者はどうして、現政権を支持するのかという就職氷河期に比べて、賃金の安い非正規でも、「今は」まあなんとかやって行けるからいいというのが、その理由のようです。

☆しかし、若者の皆さん、待って下さい。その判断には「将来」に対する洞察が欠けていませんか。今さえ良ければそれでいいのですか？

☆昨年度、国民年金を納めなかった人は6割に達しました。納めるお金がないか、年金を信用していないのです。6割の人が将来退職したとき年金なしの生活が始まります。富裕層に生まれた人はいいかもしれませんが、この年代で年金も預金もない貧困層の人が6割もいる社会を想像してみてください。恐ろしい風景ではありませんか。

そして何より平和を尊重する党と人を

☆私たちの経済生活が守られたとしても、もし憲法9条が改訂されて戦争の出来る世の中になったら、すべてが崩壊します。何よりも平和を愛し、憲法9条を変えない党と人を選んで下さい。

二〇一九年七月十四日(日) 護憲平和行進(通算629回目)
★ 浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇―一五
月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合



Now

★今、子どもが洗脳されています。子どもの未来に戦争ではなく平和を！